進化経済学会
ニューズレター vol.30
Jun. 2011

進化経済学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
国際文献印刷社内
T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp

http://www.ne.jp/asahi/ab/frex/page018.html から引用

＊＊＊＊＊＊＊記事＊＊＊＊＊＊＊

第 15 回進化経済学会サマリーズ
進化経済学会第Ⅴ期第 5 回理事会記録
進化経済学会第 15 回会員総会記録
2010 年度部会活動報告
寄稿：塩沢由典会員「進化経済学会の現状について」
学会員名簿異動
会員の新刊著紹介
進化経済学会・オータムカンファレンス・サマースクール案内
編集後記

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第15回進化経済学会名古屋大会　大会報告

本年度の大会は「グローバル経済の危機と制度・企業の進化」を共通テーマとして、2011年3月19日(土)、20日(日)の二日間にわたり120名ほどの参加者を得て、名古屋大学東山キャンパスの経済学部・経済学研究科で開催された。

今回の大会は大震災直後であり、関東、東北地方の会員の参加が困難になる可能性があった。時間がなかったため正規の会議で審議することができず、開催校および会長、関連する理事の間で開催の是非を検討した。その結果、開催直前の変更と延期の困難さ、名古屋がまったく影響を受けず正常な開催が可能な状況にあること、東京電力福島原発事故の収拾の見通しが不透明なことなどの諸般の事情を考慮して、あえて予定通り実行することとした。そのため報告や大会参加がかなわなかった会員があった。またプログラムの変更もいくつか不可避となった。ここで実行委員会を代表して、会員各位、とくに大会に参加できなかった会員諸氏に対して、お詫びを申し上げたい。

大会では震災被害救援のための義捐金が募られ、外国人特別報告の場では会長の発議で、犠牲となった方々に対する黙祷がささげられた。外国人特別報告者だったエドクヴィスト氏は、原発事故の危険性を配慮した西欧各国政府の渡航制限勧告にもかかわらず、あえて来名され、責任を果たされた。震災、原発事故、停電などの影響で中止を余儀なくされた学会、研究集会が多くあった中で、進化経済学会はこれらの困難にもかかわらず、会員および招聘報告者の努力に支えられて、学問的活動を保証していくという社会的責務を果たすことができた。

大会では5つの会場で、以下のような合計22のセッションが開催され、報告と活発な討論が行われた。

3月19日
10:00-12:00
社会経済学の諸次元、ゲーム論、イノベーションシステム、進化経済学の方法、価値と選択の理論、市場経済の機構と構造
13:00-15:00
貨幣・金融システムへの進化経済学的アプローチ、資本主義の制度進化、政府･公共部門のガバナンス、ドイツ社会国家の制度進化をめぐって、制度設計とガバナンス
15:10-17:10
観光学、制度設計とガバナンス

3月20日
10:00-12:00
経済開発と環境、制度生態系アプローチの理論と応用、進化と経済思想（I）、マルチ・エージェント・シミュレーションと社会経済実験（I）、企業システムの進化
14:00-16:00
マクロ経済の動態分析、進化成長理論と産業の多様化/ロングテールの視点から、進化と経済の思想（II）、マルチ・エージェント・シミュレーションと社会経済実験（II）、企業の理論

またポスターセッションを広く会員に公開するため、最も大きな会場であるカンファレンス･ホールを会員控え室およびポスター･セッション展示会場とし、土曜日の12:00-13:00にはその場でプレゼンテーションを行った。

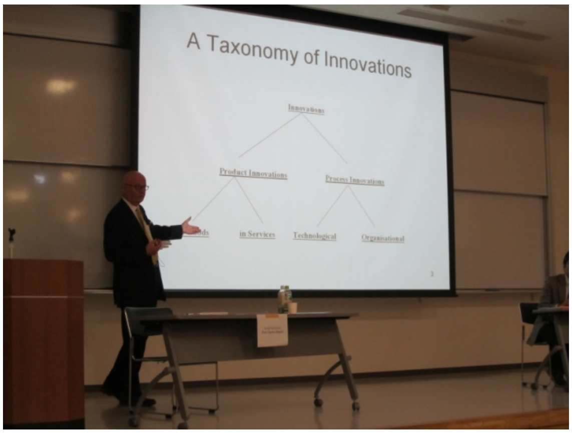
「緑の産業革命？―世界金融危機以後のスマート成長論をめぐって」をテーマとしたオータム・コンファレンスに続いて、本大会では構造転換の理論的考察をめざし、大会校では二つの企画を準備した。初日19日の15:10-17:10には、山田鋭夫会員および名古屋大学経済学研究科の平川均氏を迎え、大会校企画セッション「グローバル資本主義はどこへ行くのか」が開催された。平川氏は長年の開発経済学研究を踏まえ、発展経済の新しいダイナミズムを考察する「東アジアの経済統合と構造転換－NIESからPoBMEsへの転換と世界経済－」を報告し、山田会員は先進資本主義国の長期的な構造変化をテーマとして「世界金融危機と資本主義の動態」を報告した。これに続いて17:20-18:50には、イノベーション理論の大家であるルンド大学のCharles Edquist氏が”Innovation systems and innovation policy” と題する報告を行った。エドクヴィスト氏は最近公的調達とイノベーションの関係の実証研究に従事してい

る。報告では、氏はクリス・フリーマンたちに始まるイノベーション・システム論を、自己の研究を踏まえ、多様な制度的観点から再構成する試みを行い、これに対してフロアからはいくつもの質問がされて、実りのある討論が行われた。

プログラムの変更が必要となったため大会校の企画は初日に集中することになったが、二日目には会員総会を挟んで 10 のセッションが開催され、同様に活発な報告と議論が行われた。

以上のように第 15 回大会は成功裏に幕を閉じた。

（長尾伸一）



進化経済学会第Ⅴ期第5回理事会記録

記録作成者：理事・宇仁宏幸

日時：2011年3月19日（土）12時から13時00分

会場：名古屋大学経済学部・経済学研究科第1会議室

会長・副会長・20理事出席、委任8理事。

1. 会員状況の報告があった。退会者4名、年度末退会者7名、会費滞納退会12名であるが、第Ⅴ期第4回理事会での資格承認者が23名、当第 3回理事会で資格審査される入会希望者が10名いるので、入会・退会の手続き後の会勢は個人会員395名（休会3名含む）、院生会員87名（休会3含 む）、賛助会員（団体1・特別1）、招待会員 2名で、計486会員になる。

2. 入会希望者10名について従来から適用した基準に照らして入会資格あるものとした。

＜入会者は総会記録5を参照＞

3. 澤邉常任理事から、2009年度と比べて会費納入状況が改善されたことや、ニューズレターのEメールによる送付で経費削減されたことな ど、2010年度の会計状況の報告があり、それをふまえて平成23（2011）年度の予算案のたたき台が説明された。英文誌の機関講読と購入の拡大など収 入の増加、経費の節減のための様々な 提案がなされ、審議の結果、予算案が承認された。この年度の繰越額は370000円と予想される。2012年度に向けてさらに抜本的な収支改善策を考える よう要請された。

＜予算概要は総会記録7を参照＞

4. 第15回大会の開催は、震災の発生を考慮して、会長・副会長・実行委員会で慎重に検討した結果、開催を決定したことが実行委員会の長尾理事から報告さ れた。また、いくつかの報告のキャンセルは発生しているが、121名というまずまずの参加者数となることや、大会関連経費も予算内に納まる見込みであるこ とが報告された。第16回大会の開催大学である摂南大学に所属する八木会員から、オータムコンファレンスを9月10日、第16回大会を2012年3月17-18日に開催し たい、またテーマとして「グローバリゼーション下の繁栄と格差」をとりあげたいと説明された。

5. 国際英文誌EIERの有賀編集委員長から第7巻2号の刊行状況が説明された。また、電子投稿審査システムが来年から新しいシステムに移行するので、それに伴い投稿数を年間50本以上にしたいとの説明があった。

6. 特別講演の冒頭で、震災被災者の冥福を祈り黙祷を捧げることを決定した。震災被災者への義援金の募金を実施し、その送付先については、被災した会員が 存在する場合はその方に贈る、存在しない場合は日本赤十字社に贈ることを決定した。また、12月に役員選挙を実施することが承認された。

進化経済学会第15回会員総会記録

【記録者：宇仁宏幸】

1. 進化経済学会第15回会員総会は、2011年3月20日(日)12時45分から13時20分まで、名古屋大学カンファレンスルームで開催された。

2. 会員総会の議長として、谷口和久会員が推薦され、承認された。

3. 吉田会長から挨拶があった。

4. 会員状況の報告があった。退会者4名、年度末退会者7名、会費滞納退会12名であるが、第Ⅴ期第4回理事会での資格承認者が23名、当第3回理事会で 資格審査される入会希望者が10名いるので、入会・退会の手続き後の会勢は個人会員395名（休会3名含む）、院生会員87名（休会3含む）、賛助会員 （団

体1・特別1）、招待会員2名で 、計486会員になる。
5.第4回理事会で入会資格ありとされた23名と、第5回理事会で入会資格あるとされた以下の入会希望者10名を新会員として承認した。

高野　直樹 横浜国立大学大学院　国際社会科学研究科グローバル経済専攻
牧野　邦昭 摂南大学経済学部
松波　京子 名古屋大学大学院経済学研究科
Mu-Jeong Kho Development Planning Unit,Bartlett Faculty of Built Environment, University College London（UCL）
李　征 京都大学経済学研究科
渡辺　直行 財団法人　土地総合研究所
和田　謙一郎 四天王寺大学　人文社会学部人間福祉学科
吉中　季子 大阪体育大学　健康福祉学部
北沢　良継 九州産業大学経済学部
畠山　光史 岡山大学経済学研究科

6. 2009年度の決算が示され、監査委員の評価を求めた上で、それを承認した。

＜決算書は進化経済学会ホームページに近日中にアップする予定のニューズレター29号（修正版）に掲載＞

7.澤邉常任理事から、平成22（2010）年度の会計状況の説明と、平成23（2011）年度予算案の提案がなされ、審議の結果承認された。

＜予算概要＞

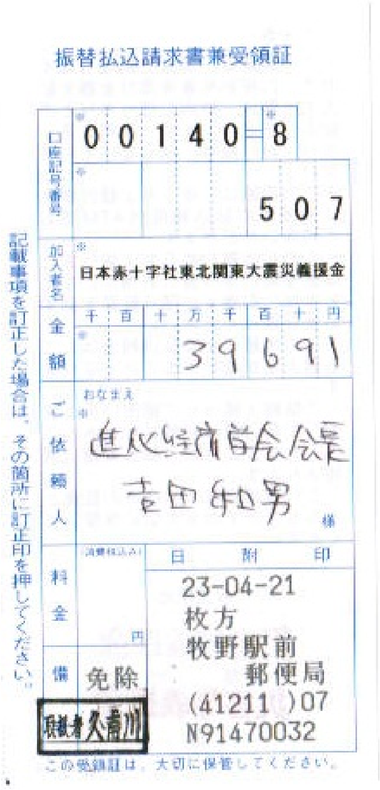
収入	前年度繰越（見込み）	840,000円
	会費	4,325,000円
	書籍売却代	200,000円
	計	5,365,000円
支出	大会費	1,000,000円
	英文誌刊行費	2,000,000円
	通信費	200,000円
	交通費	100,000円
	事務雑費	50,000円
	謝金	40,000円
	送金手数料	20,000円
	会議費	100,000円
	印刷費	200,000円
	事務委託費	750,000円
	国際交流費	50,000円
	部会補助費	350,000円
	経済学会連合	35,000円
	予備費	100,000円
	小計	4,995,000円
	平成23年度への繰越	370,000円
	計	5,365,000円

8.第15回大会の開催は、震災の発生を考慮して、会長・副会長・実行委員会で慎重に検討した結果、開催を決定したことが実行委員会の長尾理 事から報告された。また、いくつかの報告のキャンセルは発生しているが、121名というまずまずの参加者数となったことや、大会関連経費も予算内に納まる 見込みであることが報告 された。第16回大会の開催大学である摂南大学に所属する平野会員から、オータムコンファレンスを9月10日、第16回大会を2012年3月17-18日 に開催したい、またテーマとして「グローバリゼーション下の繁栄と格差」をとりあげたいと説明された。

9.国際英文誌EIERの有賀編集委員長から第7巻2号の刊行状況が説明された。また、電子投稿審査システムが来年から新しいシステムに移行するので、それに伴い投稿数を年間50本以上にしたいので、会員から活発な投稿をしてほしいとの説明があった。
10.宇仁理事から、震災被災者への義援金の募金を実施していることが報告され、その送付先については、被災した会員が存在する場合はその方 に贈る、存在しない場合は日本赤十字社に贈ることと理事会で決定したことが報告された。また、12月に役員選挙を実施することが報告された。
　塩沢理事から、今回の大会の予稿集『進化経済学論集』をみたところ、EIERや過去の『進化経済学論集』への参照が非常に少ないという指摘があった。そし て機関誌や大会が、本学会の目的である「経済理論の変革と発展をはかる」ための相互交流と交流の場として機能していないのではないかという懸念が表明され た。

以上

先日の名古屋大会で募った震災被災者への義援金は、合計 39691 円集まりました。


振替払込請求書兼受領証

口座記号番号 00140-8 507

加入者名 日本赤十字社東北関東大震災義援金

金額 39691

ご依頼人 おなまえ 進化経済学会会長 吉田和男 様

料金 円

日附印 23-04-21 枚方 牧野駅前 郵便局 (41211)07 N91470032

備考 免除

取扱者

この受領証は、大切に保管してください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

平成 22 年度部会活動報告

制度とイノベーションの経済学研究部会・活動報告

第 1 回
日時：7 月 18 日（日）午後 1 時～5 時
場所：河合塾京都校（地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車徒歩５分）
報告者：
１．武田壮司（京都大学研修員）・八木紀一郎（摂南大学）「NAFTA 下のメキシコ経済と治安問題」
２．田中宏（立命館大学）「欧州統合とユーロリージョン：越境協力の第３段階」
３．清水耕一（岡山大学）「EU の地域政策における EU-国家-地域間関係と新しい越境地域間協力組織」

第 2 回
日時：10 月 3 日（日）午後 2 時～5 時
場所：河合塾京都校（地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車徒歩５分）
報告者：
１．畠山光史（岡山大学・院）「スペインの高失業率の原因に関する一考察」
２．ユイス・バユス（立命館大学）「スペインにおける地域開発と「リスボン戦略」および「ヨーロッパ２０２０」の影響」

第 3 回
日時：12 月 19 日（日）午後 2 時～5 時
場所：河合塾京都校（地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車徒歩５分）
報告者：
1. 徳丸　宜穂（名古屋工業大学）
「欧州の技術政策と技術政策論（Charles Edquist 氏の議論のサーヴェイ）」
2. Annika Styczynski　アニカ・スティツィンスキー（ベルリン自由大学環境政策研究所博士課程）
「京都議定書とドイツの環境政策の相互関係」（仮題）（英語）

事務局：徳丸　宜穂(名古屋工業大学)

【2010 年度夏季進化経済学会北海道東北部会】

日時：2010 年 8 月 21 日（土）午後 13 時 00 開始
会場：北海道大学人文社会科学総合研究教育棟

スケジュール
・第一報告　吉地望（旭川大学経済学部准教授）
　「上川観光のネットワーク分析－カムイミンタラスタンプラリーに基づく」
・第二報告　河野善文（道都大学経営学部准教授）
　「地域通貨と経済厚生に関するモデル分析」
・第三報告　小林大州介（北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程）
　「人工物進化の観点からみた技術パラダイムと技術の社会構成主義」
・第四報告　中村宙正（北海道大学大学院経済学研究科専門研究員）
　「金融システムの進化と多元性 序説」

・司会　西部忠（北海道大学大学院経済学研究科教授）
・参加者：12 名

【2010 年度冬季進化経済学会北海道東北部会】

日時：2010 年 3 月 5 日（土）午後 13 時 30 開始
会場：北海学園大学 7 号館

スケジュール
・部会総会
・第一報告　河西勝（北海学園大学経済学部准教授）
　「公開会社の三段階論」
・第二報告　松山直樹（北海道大学大学院経済学研究科助教）
　「マーシャルによるアメリカの産業状態に関する考察」
・第三報告　西部忠（北海道大学大学院経済学研究科教授）
　'Community Currencies as Integrative Communication Media for Evolutionist Institutional Design'

・司会　吉地望（旭川大学経済学部准教授）
・参加者：7 名

2010 年度非線形問題研究部会報告

１．研究会セミナーの開催

進化経済学会非線形問題研究部会 2010 年度 No. 1/2
主催　中央大学企業研究所公開研究会
日　　時　2010 年 6 月 9 日（水）15 時 00 分～17 時 00 分
場　　所　中央大学多摩校舎 2 号館 4 階研究所会議室　3
http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html

報 告 者　服部茂幸氏（福井県立大学経済学部教授）
テ ー マ　金融政策の失敗―ＦＲＢと日本の経験

報 告 者　塩澤由典氏（中央大学商学部教授）
テ ー マ　需要飽和経済／事実・要因・対策

進化経済学会非線形問題研究部会 2009 年度 No. 3
主催　中央大学企業研究所公開研究会
日　　時　2011 年 3 月 14 日（月）　15 時 00 分～17 時 00 分
場　　所　多摩校舎 2 号館 4 階研究所会議室 1
交通マップ
http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html

キャンパスマップ
http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/campusmap/tama_map/index_j.html
報　告　者　Witt Ulrich 氏
（Max Planck Institute of Economics, Director）
テ　ー　マ　Novelty and the bounds of unknowledge in economics
推薦チーム　現代社会経済危機と複雑系企業システム（主査　有賀裕二）

参考文献

(1) Witt, U., Novelty and the bounds of unknowledge in economics,
Journal of Economic Methodology, 16(2009), 361-375
(2) Witt, U., Propositions about novelty,
Journal of Economic Behavior
& Organization, 70 (2009), 311-320

[備考]
[evoecojapan.1694] Prof. Witt 教授の中央大学セミナー中止のお知らせ
会員各位
誠に残念ではございますが、地震による影響のため、中央大学多摩キャンパスでの Prof. Witt のセミナーを中止いたします。
開催予定場所であった中央大学多摩キャンパス 2 号館（研究棟）では、地震のため、個人研究室の書架が倒れ、一部で入室できない被害が発生しました。そのため、12,13 日は入校禁止措置が採られ、現在、被害を確認中です。
セミナー開催の 14 日には入校禁止措置は解除されると思いますが、以下の事情で、セミナー開催は困難な状況と判断いたしました。
(1)後片付け等で周囲の環境が騒がしい。また、一般の参加者が参加しにくい状況が想定される。
(2)東日本地域で参加予定であったメンバーの方々が、交通機関の事情で、出席不可能となった。
(3)都内の交通渋滞のため、荷物を持って移動される Prof. Witt の移動に困難が生じる可能性がある。
すでに Witt 先生には中止のご了解を得ました。Witt 先生も残念がっておられますが、翌日、ご帰国の予定です。
いまだ不確定要素もありますので、時間的余裕を持って行動していただくためにも、やむをえず、開催中止の判断をいたしました。
ご関心をお持ちいただいた方々には誠に申し訳なく思っております。
有賀裕二　拝
----

2. 会計報告

収入の部

繰越金	39,254	前期より繰越
部会補助費	50,000	
収入合計	89,254	

支出の部

次期繰越	89,254
支出合計	89,254

備考
Prof. Witt への謝礼分がセミナー中止によって未払いとなった。

このあとに監査人の署名

吉田雅明

非線形問題研究部会　有賀裕二（文責）

観光学研究部会活動報告

平成 22 年度において、観光学研究部会では以下通り研究活動を行った。

第７回研究会
日時　2010 年 7 月 10 日（土）
場所　早稲田大学 29-7 号館
講演１　古屋順子（フリーライター、フリー編集者）”中国語圏における観光ガイドブック編集の難しさ”
講演２　駒木 伸比古（首都大学東京）”地方都市における大型店立地と地域変容―これからのまちづくりを考えていく手がかりとして―”

第８回研究会
日時　2010 年 12 月 11 日（土）
場所　日本大学経済学部
講演１　【招待講演】 関口　伸一（トップツアー㈱専門課長）「実務家が教壇に立つ意義 1　“－「実」と「学」を行き来することでみえてくるもの－”」
講演２　井上　泰日子（元日本航空人事部長）「実務家が教壇に立つ意義２“大学の教育をどう考えるか（企業人の視点から）”」

第９回研究会
日時　2011 年３月 18 日（金）
場所　愛知大学車道キャンパス　　（日本観光学会中部支部と共催）
【招待講演】小宅　一夫（名古屋観光コンベンションビューロー観光部長）「名古屋の観光政策」

いずれもかなりの盛況であり、今後も部会活動を活性化していきたいと考えている。今年度は、以下の予定で活動する。7 月福岡、9 月大阪、12 月東京で研究会を開く予定であるが、詳細は部会 WEB サイトを参照されたい。https://sites.google.com/site/evolutionandtourism/home

２０１０年度　進化経済学会　「現代日本の経済制度部会」報告

２０１０年度の「現代日本の経済制度部会」は以下の日程で２回開催された。

第一回
この研究会では、学会員の著書３冊の合評会を行った。
日時：　６月１２日（土）１３：００～１７：３０
場所：　名古屋大学経済学部　第一会議室
報告内容は以下の通りである。
１．藤田菜々子著『ミュルダールの経済学─福祉国家から福祉世界へ』
評者：宇仁宏幸氏（京都大学）

２．中原隆幸著『対立と調整の政治経済学─社会的なるもののレギュラシオン』
評者：山本泰三氏（愛知大学／四天王寺大学・非）

３．遠山弘徳著『資本主義の多様性分析のために─制度と経済パフォーマンス─』
評者：原田裕治（名古屋経済大学）

第一報告については、累積因果連関を巡る著者の見解が、マクロ経済学一般で認知されているその概念とやや異なっていることが指摘され、著者の藤田氏からその違いに関する説明がなされた。第二報告については、「象徴的媒介とは何か」という点に議論が絞られ、その概念的あいまいさが指摘されると同時に、経済学分析における政治的決定過程をどのような制度的枠組みに従って構築されるかが議論された。第３報告については、制度の多様性を巡る議論が行われ、新古典派経済学においても「制度多様性概念の吸収とその応用の諸実践」の研究が進行している、との意見が出された。なお参加者は２０名ほどであった。

第二回

第一回に引き続いて、会員著書の合評会を行った。
日時：２月２８日（月）　１３：００～１７：００
場所　京都大学　経済学部 101 演習室
報告内容は以下の通りである。
１．「清水耕一著『労働時間の政治経済学』（名古屋大学出版会）を読む」
評者：平野泰朗（摂南大学）
２．「宇仁宏幸・山田鋭夫・磯谷明徳・植村博恭著『金融危機のレギュラシオン理論：　日本経済の課題』（昭和堂）を読む」
評者：中原隆幸（四天王寺大学）・原田裕治（名古屋経済大学）

第一報告では、フランスにおける「３５時間法」の歴史的成立過程とその実践過程が詳細に検討され、フォーマルなルールである「法律」とは別のインフォーマルなルールが「労使妥協」に基づいて形成され、実効性を担保していることが明らかにされた。第二報告では、「企業主義的レギュラシオン」から「金融主導型レギュラシオン」への移行を巡り、その理論的かつ実証的な分析が検討された。とくに、その以降の画期がその時代に見いだせるのか否かを巡り、活発な議論が行われ、それは「おおむね１９９５～７年」にかけてではないかとの主張が、著者たちからなされた。参加者は２５名ほどであった。

以上

（文責：中原隆幸）

企業・産業の進化研究部会報告

「企業・産業の進化研究部会」では、経営学と経済学の事例紹介・交流にとどまらず、そこから新たな理論として何を打ち出すことができるのかを模索し、さらに一歩踏み込んだ学融合を目指して、進化経済学の描くべき人間像、組織のとらえ方、科学哲学にいたるまで幅広く活発な議論が行われている。開催場所は、東京大学ものづくり経営研究センター（東京大学経済学研究科学術交流棟（小島ホール５階））、日時・テーマは学会 ML で案内される。昨年４月以降に行われた部会（テーマと報告者）は以下のとおりである。

第６回：４月７日（水）　宮本光晴氏（専修大学経済学部教授）
「日本の雇用システムと企業統治：ポストバブルからポストリーマンまで」
第７回：６月１５日（火）生稲史彦氏（文京学院大学経営学部准教授）
「開発生産性のディレンマ―デジタル化時代のイノベーション・パターン」
第８回：７月１４日（水）吉田雅明氏（専修大学経済学部教授）
「進化経済学　基礎概念・基本モデル・科学方法論」
第９回：１０月２０日（水）塩澤由典氏（中央大学商学部教授）
「ロングテールと産業の多様性」
第 10 回：１２月９日（木）岸田民樹氏（名古屋大学大学院経済学研究科教授）
「組織化と進化プロセス」
第 11 回：２月３日（木）
　報告１　香村由紀氏（進化経済学会会員）
　「需要不足と、機械の記述枠　－経済での、物の作用/構造と意味－」
　報告２　吉田 雅明氏（専修大学教授）
　「進化経済学の基本モデルのために」
第 12 回：４月２０日（水）　柴田徳太郎氏（東京大学大学院経済学研究科教授）
　「「慣習」に依存し「慣習」を「創発」する人間像－経済人仮説を超えて－」

進化経済学会の現状について

塩沢由典

進化経済学会は、大会が 15 回、英文誌 EIER も、7 巻通巻 13 号を数えます。進化経済学会の現状を調べるために、簡単な引用分析をしてみました。

まず、第 15 回名古屋大会の報告要旨(『進化経済学論集』CD)。報告が全部で 77 本。これらのうち、「進化経済学」に報告中で触れているもの 24 本、本学会への言及が 51 回ありました。進化経済学とは別に「進化」につてのみ触れたものは 392 個所、evolution への言及も、110 個所ありました。しかし、本学会の活動との関係では、過去の『進化経済学論集』掲載論文を引用しているもの 3 本、進化経済学会が出版した本への言及は計 5 本しかありません。学会が力を入れている英文誌(EIER)の論文への言及も、全部で 5 回しかありませんでした。

EIER 自身ではどうでしょうか。EIER は、2004 年に創刊号が出ています。それから 3 年たった 2007 年の第 4 巻から、最新の第 7 巻第 1 号までの計 7 号について調べてみしまた。全部で 59 本の論文・ノート・書評などのうち、日本人の名前によるものが 35 本。これで見ると、平均としては会員の貢献がかなりあります。しかし、それら論文等の文献表(総本数 28)で見ると、全文献数 560 本のうち、日本人著者をふくむもの 145 件、このうち著者自身の論文の掲載が 51 本あります。しかし、これだけの文献が参照されていながら、EIER を採用したものは(外国人寄稿の論文を含めて)わずか 3 本しかありません。

簡単な調査ですが、ここからいくらかの傾向が読み取れます。進化経済学会は、「進化」を主題にするという意識は遍在しているようですが、進化経済学としてどうあるべきかについては、関心が薄いようです。さらに、進化経済学をどのように発展させていくかについて、自分

達たちの問題意識を育てていこうという気持ちも希薄に思われます。学会での報告も、日本語の出版物も、また EIER の論文も、ほとんど参照されていません。これはどうしたことでしょうか。

外国の文献を読んで解釈すればいい。著名な研究者が取り上げた問題を追いかけていればいい。こんな意識がまだ残っているのではないでしょうか。15 年前に進化経済学会を立ち上げたとき、自分達の手で進化経済学という新しい学問を創造していくと決意しました。その決意が失われていないでしょうか。薄れていないでしょうか。

最近、西部忠・吉田雅明さんたちによる『進化経済学　基礎』、谷口和久さんによる『生産と市場の進化経済学』がでました。二つとも、進化経済学の全体像を示そうとした労作です。感心するところも不満も、もちろんあります。こうした機会に、進化経済学とはなにか、進化経済学は現代の課題にいかに応えることができるのか、について大いに議論を巻き起こそうではありませんか。自分達の中から新しい問題・課題を育てていけるような学会になることを望んでいます。

＊＊

名簿訂正（訂正事項のみ記載）

＊＊

名簿訂正

会員名	変更箇所	住所／種別	TEL/FAX/e-mail	所属名
梅澤　直樹	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
鄭　裕勲	所属先、種別	[redacted]	[redacted]	Industrial Program Evaluation Team National Assembly Budget Office
大堀　耕太郎	種別	[redacted]	[redacted]	
金森　絵里	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
白石　浩介	所属先住所のみ	[redacted]	[redacted]	
小湊　卓夫	所属先、種別種別	[redacted]	[redacted]	九州大学高等教育開発推進センター高等教育開発部
鈴木　信貴	所属先	[redacted]	[redacted]	京都大学医学研究科『医学領域』産学連携推進機構　メディカルイノベーション推進室
松波　京子	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
小林　重人	自宅住所　種別	[redacted]	[redacted]	
福田　順	種別	[redacted]	[redacted]	
江里口　拓	自宅住所、所属	[redacted]	[redacted]	西南学院大学経済学部
駒木　伸比古	所属先	[redacted]	[redacted]	愛知大学　地域政策学部
上浦　基	所属先	[redacted]	[redacted]	東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系
吉野　裕介	自宅住所、所属	[redacted]	[redacted]	京都大学大学院文学研究科
塚本　恭章	自宅住所、所属、種別	[redacted]	[redacted]	愛知大学経済学部
延東　洋輔	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
牧野　邦昭	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
小笠原　春菜	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
深見　聡	所属先	[redacted]	[redacted]	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科環境科学領域
八巻　惠子	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
砂川　和範	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
本吉　祥子	自宅住所	[redacted]	[redacted]	
原田　裕治	所属先	[redacted]	[redacted]	福山市立大学都市経営学部
只友　景士	所属先	[redacted]	[redacted]	龍谷大学政策学部
井出　明	自宅住所、所属	[redacted]	[redacted]	追手門学院大学経営学部

新規入会者

会員名	フリガナ		発送先〒	発送先一住所	所属一機関名	推薦会員
高野　直樹	Takano	Naoki	179-0074	[redacted]	横浜国立大学大学院　国際社会科学研究科グローバル経済専攻	植村　博恭先生、大熊　一寛先生
牧野　邦昭	Makino	Kuniaki	540-0011		摂南大学経済学部	八木　紀一郎先生、平野　泰朗先生
松波　京子	Matsunami	Kyoko	464-0083		名古屋大学大学院経済学研究科	長尾　伸一先生、西本　和見先生
Mu-Jeong Kho	Mu-Jeong	Kho			Development Planning Unit,Bartlett Faculty of Built Environment,University College London（UCL）	吉田　和男先生、宇仁　宏幸先生
李　征	Ri	Sei	606-8315		京都大学経済学研究科	宇仁　宏幸先生、福田　順先生
渡辺　直行	Watanabe	Naoyuki	155-0033		財団法人　土地総合研究所	吉田　和男先生、宇仁　宏幸先生
和田　謙一郎	Wada	Kenichiro	547-0042		四天王寺大学　人文社会学部	中原　隆幸先生、 宇仁　宏幸先生
吉中　季子	Yoshinaka	Toshiko	558-0052		大阪体育大学　健康福祉学部	中原　隆幸先生、 宇仁　宏幸先生
北沢　良継	Kitazawa	Yoshitsugu	813-8503		九州産業大学経済学部	磯谷　明徳先生、 岡村　東洋光先生
畠山　光史	Hatakeyama	Akinobu	671-2222		岡山大学経済学研究科	清水　耕一先生、 宇仁　宏幸先生

新著案内

谷口和久会員、有賀裕二会員、正木響会員から新著の案内が届きました。いずれも進化経済学の研究成果を示すものですので、是非ともお買い求めください。

１．谷口和久　『生産と市場の進化経済学』共立出版，2650 円
http://www.kyoritsu-pub.co.jp/shinkan/shin1104_02.html

２．Volker Caspari eds. “The Evolution of Economic Theory Essays in Honour of Bertram Schefold” Series: Routledge Studies in the History of Economics
http://www.routledge.com/books/details/9780415596831/

Table of Contents

Introduction Volker by Caspari
Part 1: Marxian and Sraffian Economics
1. Sraffa and the Universal Basic Income by Guglielmo Chiodi
2. The Long-Period Method and Marx’ sTheory of Value by Duncan K. Foley
3. Exhaustible Resources: Rents, Profits, Royalties, and Prices by Heinz D. Kurz and Neri Salvadori
Part II: Capital Theory
4. On the Recent Debate on Capital Theory and General Equilibrium by Fabio Petri
5. Capital ‘Perversities’ in a One (New) Commodity by ModelIan Steedman
Part III: History of Economic Thought
6. Walras-Cassel, the German Connection Revisited by Alain Alcouffe
7. Knut Wicksell’ s Principle of Just Taxation RevisitedCharles by B. Blankart and Erik R. Fasten
Part IV: Macro and Applied Economics
8. The Matching of Interactive Agents in the Futures Stock Market and the U-Mart Experiment by Yuji Aruka and Yuhsuke Koyama
9. Macroeconomics with Non-Clearing Labour Market by Willi Semmler and Gang Gong
10. Choosing between foreign investment and subcontracting: Strategies of Italian firms in Romania by Giuseppe Tattara

３．アオキ・マサナオ著　有賀裕二監訳，「マクロ進化動学と相互作用の経済学」
中央大学出版部　http://www.amazon.co.jp/マクロ進化動学と相互作用の経済学-マサナオ-アオキ/dp/480573311X

４．井野瀬 久美惠 ・北川　勝彦　編著『アフリカと帝国―コロニアリズムの新思考に向けて―』晃洋書房、2011 年 978-4-7710-2172-3　3800 円（税別）
http://www.koyoshobo.co.jp/backnumber/detail.php?isbn=2172-3

内容：
英国議会資料として蓄積された膨大な情報を読み直し、帝国の語りと記述を超える試み。歴史意識と 現在意識を相互に照射しつつ、分割・支配されたアフリカの多様な植民地経験に切り込み、コロニアリズム研究に新境地を開く。そこに、支配の呪縛を乗り越える鍵も見えてくる。

目次：
序章　コロニアリズム研究の新思考にむけて　（井野瀬久美惠）
第 I 部　「分割」と「支配」の後遺症―帝国の語 りと記述を超えて―
第１章　 アフリカ史におけるコロニアリズ ム研究の再中心化－記述と枠組みの新機軸に向けて）（ポール・ティヤンベ・ゼレザ）
第２章　ジンバブウェ史研究の黄金時代とその衰 退－1967 年から現在まで－（ヌグワビ・ムルンゲ・べべ）
第３章　帝国の遺産 －イギリスに対する帝国の余波－（アンドリュー・トムソ ン）
第４章　「他者」への想像力－大日本帝国の遺産 相続人として－（成田龍一）

第 II 部　植民地「分割」の解剖―境界確定のポリティカル・エコノミー―
第５章　英領ガンビアの対仏割譲交渉とその社会経済史的背景　（正木響）
第６章　トーゴをめぐる植民地境界確定と政治的アイデンティティ形成（岩田拓夫）
第７章　境界線確定とイギリス帝国内の確執－利用されるレソトの声－（西浦昭雄）

第 III 部　植民地「支配」の構造とエージェントーエリートから底辺までー
第８章　藪の中－語られるシエラレオネ小屋税戦争のリアリティへ－（落合雄彦）
第９章　帝国による「保護」を巡る現地エリートの両義性－初期植民地期イギリス領ゴールドーコーストの事例から－（溝辺泰三）
第 10 章　二〇世紀初頭タンガニーカのトリロジー－大英帝国、伝道界、そして植民地の人びと－（小泉真理）
第 11 章　二〇世紀初頭西南アフリカにおける二つの植民地主義－ブルーブック論争｣から－(永原陽子)
第 12 章　南部アフリカにおける支配の重層構造 －ポルトガル領モザンビークにおける南アフリカ金鉱業の労働力調達－（網中昭世）
あとがき
参考文献
事項索引

進化経済学会　オータムカンファレンスのご案内

場所：摂南大学経済学部
日時：2011 年 9 月 10 日
摂南大学へのアクセス　http://www.setsunan.ac.jp/s/access/
学内地図　http://goo.gl/maps/uk7X

１．特別講演
講師：アラン・リピエッツ（フランス緑の党経済顧問等）
テーマ："Fear and desire. On the acceptability of a Green Deal."
今日の経済危機下におけるエネルギー・環境政策等を論じる。

２．シンポジウム
テーマ：大都市圏の形成と社会変容
産業集積としての大都市圏の形成要因とそれが引き起こす他地域への経済的影響および都市圏内部の社会的変容の問題（都市インフラ、地域医療、子育て支援体制、貧困問題等）を考察する。
シンポジスト：３名を交渉中

進化経済学会サマースクールのご案内

2011 年度「若手研究者による講演：進化概念と経済学説・経済思想」

日時　2011 年 9 月 9 日（金曜）　14:00～　（受付開始 13:30～）
会場　摂南大学１０号館６階の１０６１教室
摂南大学へのアクセス　http://www.setsunan.ac.jp/s/access/
学内地図　http://goo.gl/maps/uk7X

プログラム
1400　開会挨拶　若手育成担当江頭進さん〔小樽商科大学〕
1410　参加者自己紹介　30 人・@30 秒=15 分程度
1430　牧野邦昭さん「進化の概念について：近代日本思想史から」
（摂南大学講師，近著『戦時下の経済学者』中公叢書，2010 年）
1530　休憩
1540　藤田菜々子さん「進化とミュルダール経済学」
（名古屋市立大学准教授，近著『ミュルダールの経済学―福祉国家から福祉世界へ』NTT 出版，2010 年）
1640　休憩
1700　意見交換
1750　終了

1900　懇親会（会場未定，京阪寝屋川市駅周辺）
＝＝＝＝＝＝

進化経済学会サマースクール担当
小山友介〔芝浦工業大学〕
小川一仁〔関西大学〕
吉野裕介〔京都大学・GCOE 研究員〕

編集後記

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。今回も皆様のご協力をもちまして、無事完成までこぎ着けることができました。

早いものでニューズレターを担当して 4 年が経ちました。今回の編集をもちまして、私はお役御免とさせていただきます。

次号以降のニューズレター編集は金沢大学の瀬尾崇会員が担当します。よろしくお願い申し上げます。

編集担当・小川一仁（関西大学社会学部）